

美瑛富士避難小屋トイレ設置 署名活動経過報告

岩村 和彦 (山のトイレを考える会)

山のトイレを考える会が発足して今年で満6周年を迎えます。この間キャンプ地の調査や登山者へのアンケートを通じて、登山口や山中のキャンプ指定地でのトイレの必要性が明らかになって来ました。

中でも大雪山国立公園の美瑛富士には避難小屋があり、キャンプ指定地になっているにも関わらずトイレがないため、周辺の汚染は目を覆うばかりのものです。この山は十勝連峰からトムラウシ山方面への縦走の玄関口に当り、本州からの遠来者を含めて多くの登山者が行き交う要所となっています。

会では2004年9月5日に17名の参加を得て、汚染調査を兼ねトイレ紙や汚物の回収を行いました。汚物51、トイレ紙142を担ぎ下ろしましたが、トイレがない状況には変わりなく、あくまで一時凌ぎに過ぎません。また用足しをする木陰を求めてトイレ道が四方に伸び、裸地の拡大や植物の踏み付けなども認められます。

そこで会として美瑛富士避難小屋へのトイレ設置を始めとした環境保全対策の実施を求める署名活動を、昨年の山のトイレフォーラムにて提唱し、参加者の理解を求めました。

実際の署名活動では当会だけでの活動や呼び掛けでは限界があります。そこで「美瑛富士避難小屋にトイレを求める連絡会」を設置し、主体として当会が担当することにした。

6月に環境大臣と北海道知事宛の「美瑛富士避難小屋にトイレ設置を求める要請書」を作り、道内を中心に個人、団体550箇所へ郵送し、実質的な署名を開始しました。同時に山岳会や環境問題に携わる団体などへの連絡会への参加を求めたところ、24団体の参加を得たことは誠に心強い限りです。

目標署名数を3万筆に設定しました。3万という数字には明確な根拠はありません。どの位集まるかも不明ですが、道民570万人の1%は無理でも、0.5%は集めたいな、と思った数字です。28500筆、切り上げて3万筆としたのが正直なところです。

一般社会への山のトイレ問題のアピールも兼ねて、札幌駅南口、秀岳荘白石店、同本店での街頭署名活動を7月30日、8月6日に実施しました。延べ36名が参加し、当会の幟旗を立て、胸にはプラカードを下げて通行人や来店者へアピールし、二日間で2300筆を集めることが出来ました。

恒例となりました9月4日の全道一斉山のトイレデーも署名活動を中心に行い、21箇所に91名が参加し、確認出来ただけでも1449筆でした。個人や団体からも続々と寄せられ、一人で何百と集めて頂いた方もおります。

2月14日現在23695筆が集まっています。3月末の締め切りまでに長い時間は残されてはいませんが、少しでも多くの賛同者を集めることで、国や道へ施策を求める力がより強くなることでしょう。